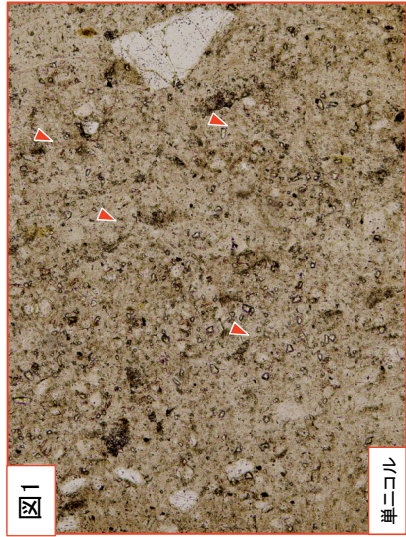
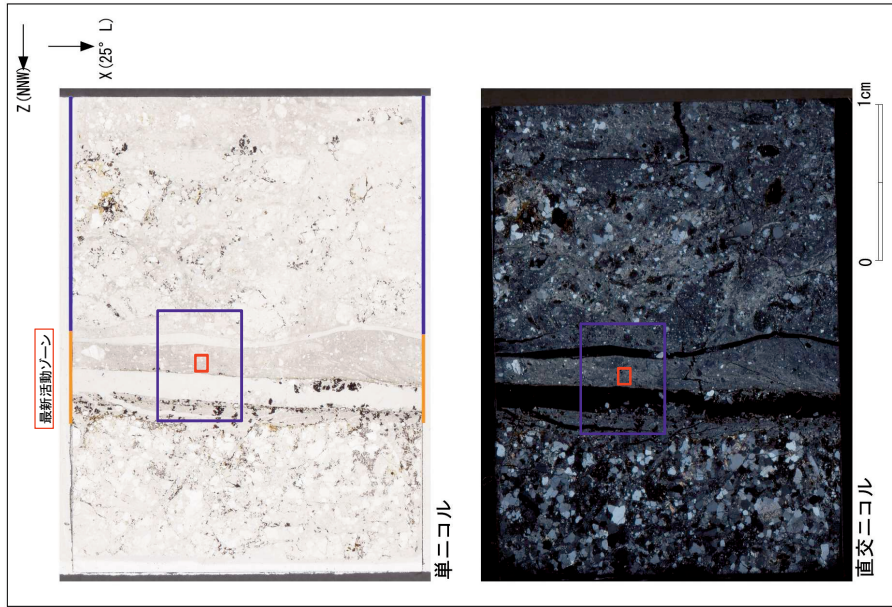
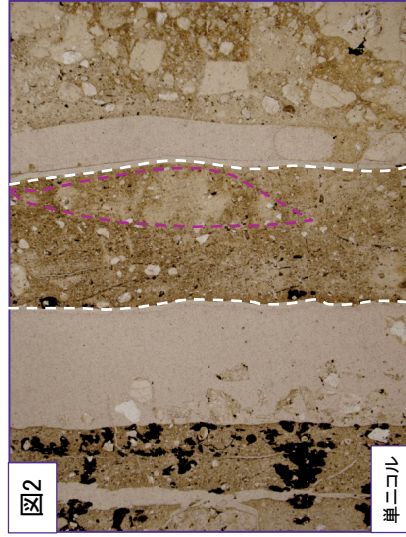
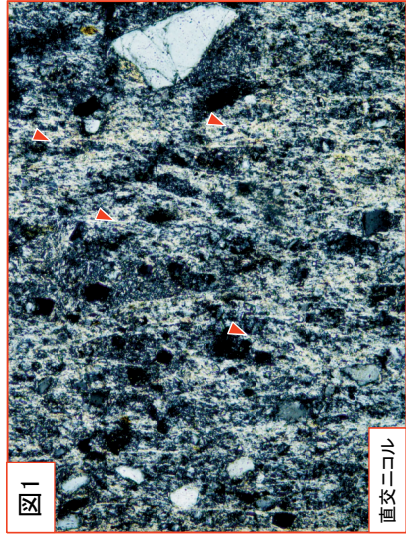


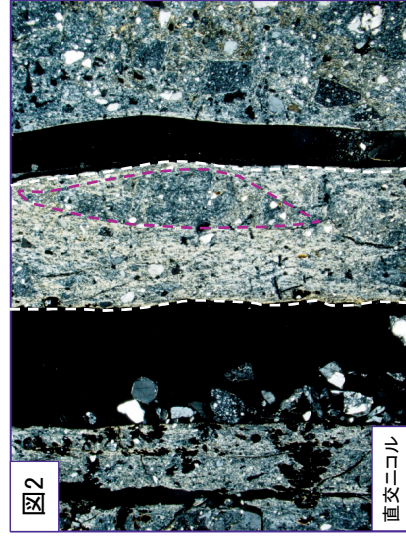
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図2)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。(図2)



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



ピンク破線はレンズ状に引き延ばされた岩片を示す
白破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度88.92m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
 - レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	2.0	有

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度91.69～91.70mの「粘土状」と記載の箇所については、幅が狭く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。
- ・深度91.70～91.72mの「礫質粘土状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度91.72～91.76mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、硬質であり、挟在する白色粘土脈は不連続で、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

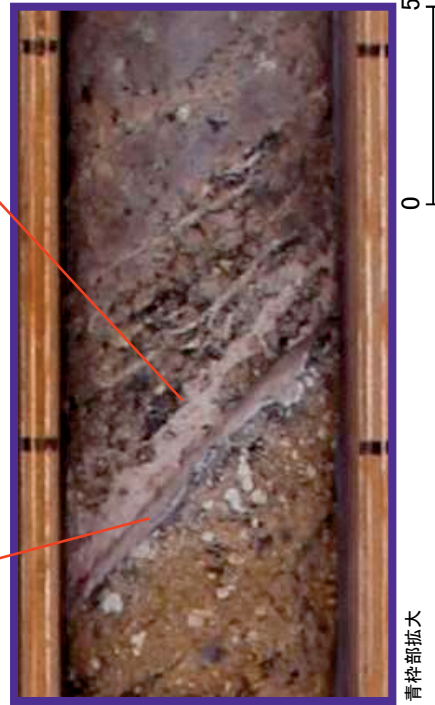
●91.69～91.76m：破砕部
 91.69～91.70m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径0.5 mmの微小な石英粒を約5%含む。軟質。明褐灰～灰褐色を呈する。上端側の一部に白色粘土脈とマンガングルを伴う。幅3～8mm。
 91.70～91.72m：礫質粘土状部 (Hb)
 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続。径1～3 mmの石英粒、径5mm前後の硬さ「D」岩片を約20%含む。軟質。灰白色を呈する。幅7～12mm。
 91.72～91.76m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、径5～10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5～1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい褐色を呈する。幅30～40mm。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

深度91.69～91.70mの軟質粘土
 粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい

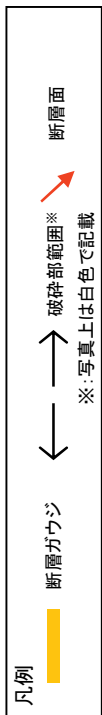


青枠部拡大

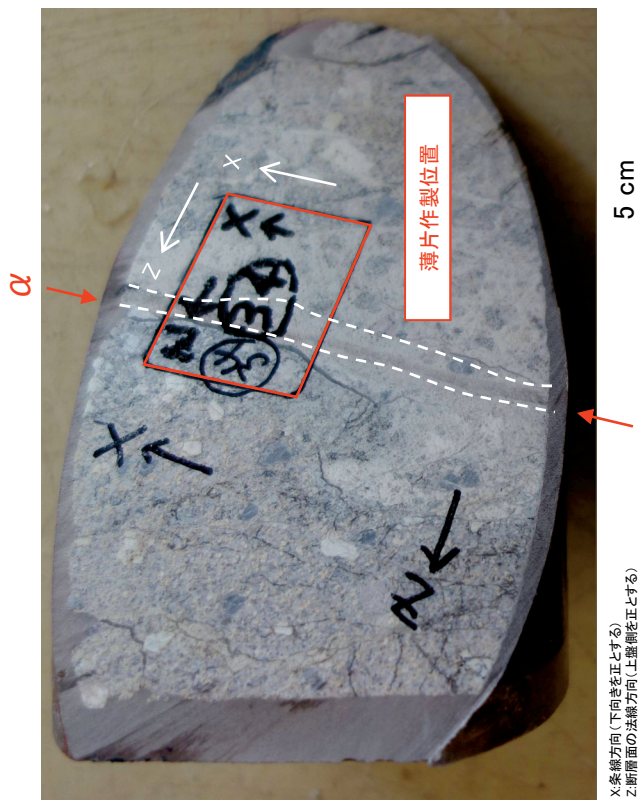
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

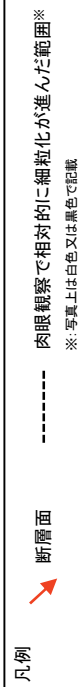
コア写真



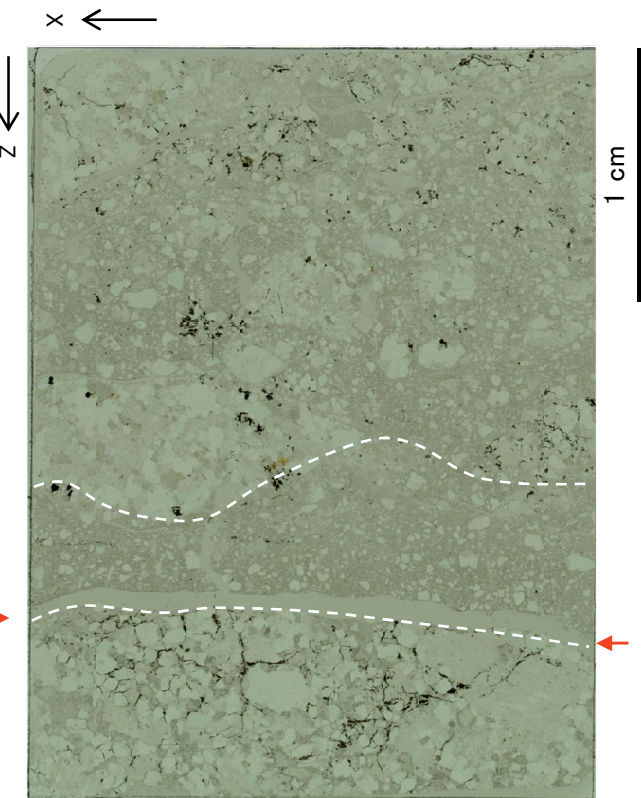
薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上層側を正とする)

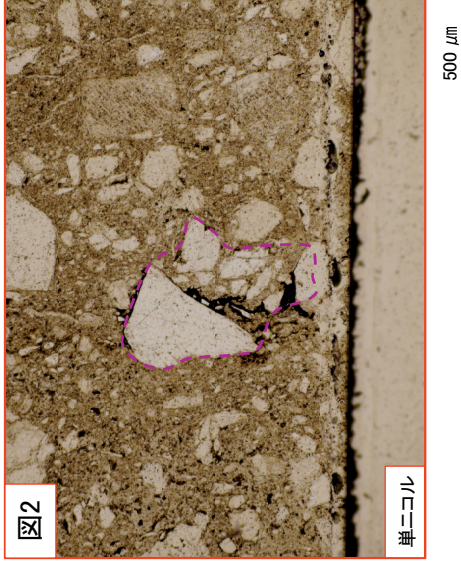
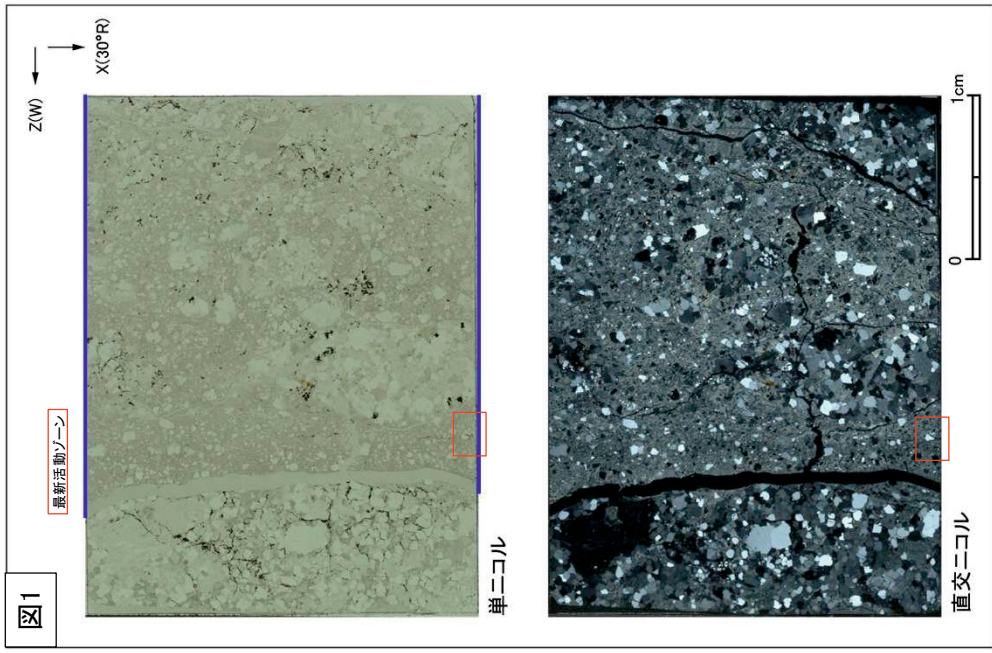


薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上層側を正とする)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



凡例
— カタクレーサイト

(肉眼観察結果 深度91.70m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は幅が狭く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。これらことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - ・ 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - ・ 組織は漸移的に変化する。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - ・ 角ばった岩片が多い。
 - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された軟質な粘土状部は、原岩組織の有無を把握できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
 - ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した最新活動ゾーンの細粒部は、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	- (0.8)	- (無)

* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度120.63～120.65mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した力タクレーサイトであると判断した。

・深度120.65mの「粘土状」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

ボーリング柱状図

●120.63～120.65m：破砕部
 120.63～120.65m：粘土質礫状部 (Hb)

上端12～32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。径2～3mmの石英粒、径3～10mmの岩片を計20%程度含む。やや軟質。オリーブ灰色を呈する。幅15～25mm。

120.65m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1～3mm。

コア写真



深度120.65mの軟質粘土

